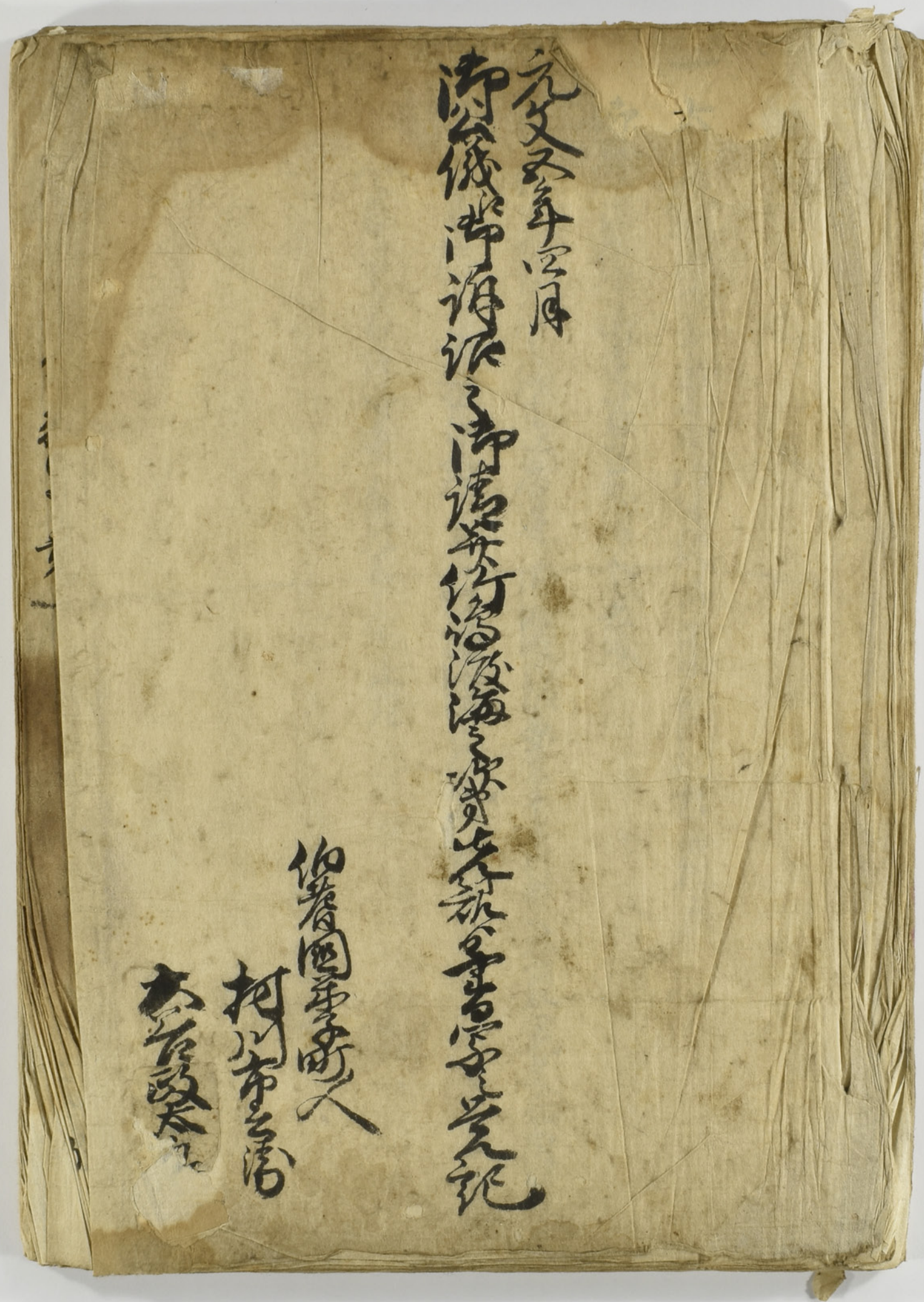
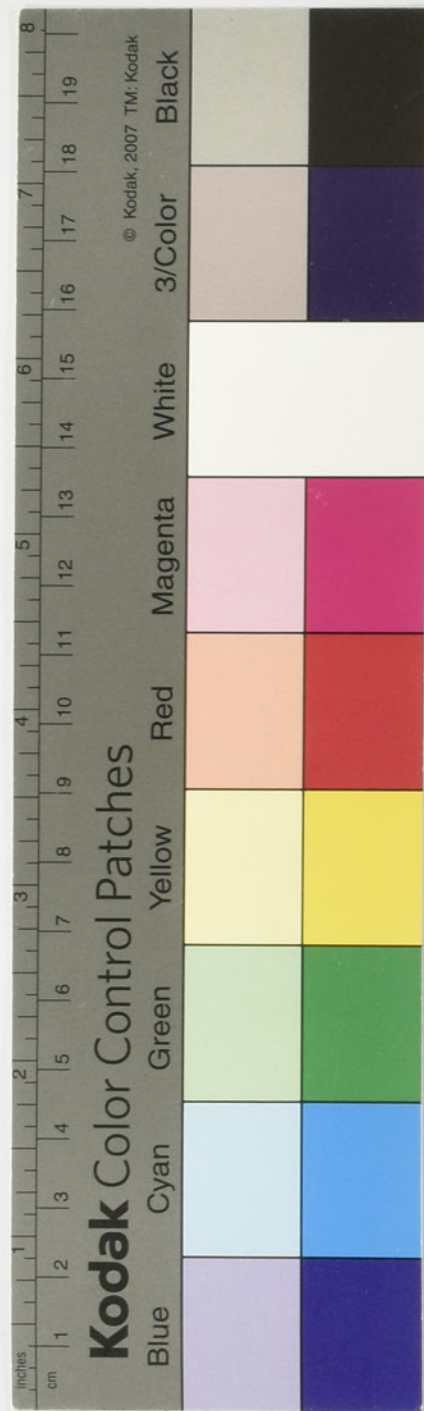




竹譜渡海之儀私先祖之者以爲 作月山有記云
松年新名師樣因懷舊者
亦願知之云元如之子許國清任重之者 亦上使阿補世襲師樣汝爲於
亦號稱竹譜渡海仕後有松先祖者亦海派中一將之元如等別先祖若去
尚多地其族亦影其事云安亦此錄之正稱之亦渡海仕有固事於十六日
新名師樣汝 亦奉書爲 作月山有記云 亦奉書 新名師樣汝先祖之
老名頂戴汝也 亦月見著 作月山有記云 亦奉書 新名師樣汝先祖之
渡海仕也云之福云年彼時下唐公於渡海之

仰看奇標奔海江進汝師更公六等七夜八等九等
唐金剛經子付進

伯耆守様
御返進
此書
竹塙波海
御書
旨之
謹見
己
月
六
日

仰看奇樣令人
仰奉書為
仰西公自別從

留聲錄
江陰志

[illegible]

卷通元祐四年元祐四年冬竹海仁愛波海仁唐八波海仁付

波海創基記 作付以後五ノ者波世可仕振興云々

市願主ノ市博覧會ノ元及清令中振込 作付迄云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

市上ノ市大恩ノ初振込金年毎有振込而得振込及困窮民ノ救済云々

元文四年申四月日

寺社市奉行所様

市役人中候

在之市役所

右に廻り書

一 右様書に面書就に通私先祖に老を祀りて奉る

公方様は 御見書 御附書に御紋に御時服并に結束

大守様は 御見書に衣冠先祖に老を祀りて奉る御紋衣并御頂戴は原之目且又私に

祖文に書きたる御書に御紋衣并御頂戴は原之目且又私に

大守様は 御見書に御附書に御紋衣并御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

大廣院様御代迄奉る迄に御書に御紋衣并御頂戴は原之目且又私に

右様書に面書就に通私先祖に老を祀りて奉る

上國別以書書に御見書に御附書に御紋衣并御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

御用之候に御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

八月三日

大谷金右衛門

大谷金右衛門

御云候に御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

御云候に御頂戴は原之目且又私に

八月廿五日

右之書法也余則亦書附之可也

右之書法也余則亦書附之可也

多讀

御見願之通也

御附也

子八月廿五日

右之通也

一 右之書法也余則亦書附之可也
先經手書附之可也

竹海渡海之書也

一 貞享元年正月

權現様以奉之 御勅状又云 御由緒之書也

御附也

權現様以奉

御由緒之書也

右之書法也余則亦書附之可也

御附也

御由緒之書也

從伯蒼園子竹海

先年丹波之中山

能名也之及波

海之波子町人

村川市之富太之吉

中上之邊

上國之利不有吳之

方法御品乃移其

之波海之波之

御品之之邊

永井伝次郎

井上主計郎

七井大炊頭

酒井雅重

松平新左衛門

右之通事

一 台使院様以兼 御見當 御所山良於 御城竹崎地之波缺上は山を

越之方御所 御老中様方 御側用人様方 若御家寄様方

寺社部事務方發進上江村

台徳院様御代 御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次
可爲此等御代に於て松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

一 寺社部事務方發進上江村

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

松平左衛門兵衛

二月六日

西條寺下

寺社部事務方

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

村川市立書局

一 台徳院様御代

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

御側御用人松平左衛門兵衛様御書付成爲今迄之御取次

好修一守之中山

結末今夜於京邸遊上

仕度方以中山相之末

串籠去月七廿大物發

涉被發後一版之尾

能了中山竹嶋之渡海

振子と成妻

御終之義不徒今公家

以方之中也中大物發

以江渡之末也中山

持病之別方小渡國發

中世江戸江島之七條

以末

上末付之小渡國發方に

中世之御終發疾當

若山と方海島と方山

行渡國方之方山

要細末之渡國方山

之江云

安徳堂又郎

西之寺下

新刊

村川市来後

入安信寺
今中
酒井隆盛
右衛門

明子名伯考國司大屋大藏

新宅系有清水保之坊保之

大屋大藏行清之新宅大藏

河内例 公方根清水保之坊

之坊系有清水保之坊保之

右衛門清水保之坊保之

清水保之坊保之

清水保之坊保之

八月

為新寺

已新寺

已新寺

已新寺

已新寺

已新寺

已新寺

五言六句可中閒快
來出竹梢波如青
中上三句法參觀旨
萬景之長也此中義以
之

大保內藏

子

村市云云

三

右通御座

一 台院撰以策 沛伐撰 沛月見之良法撰 撰方沛礼之良書撰 爲
成法撰 沛月見之良法撰 撰方沛礼之良書撰 爲
成法撰 沛月見之良法撰 撰方沛礼之良書撰 爲

五月廿四日

一以例月
沛礼如海

系勒之而祀

錦堂把金馬
松年肥而壽

綿石把金鳥伏
松平王殿

蠟燭三金馬氏
松平飛後雪

一、救彈突弱之症，有以故者。蠟燭之症，二種：一為治房之，使老弱代

伯耆國所屬人系上

箱寄

大正九年

在經之

一大猷院據清代寬永十一年二月 西之市丸 市書院座之板 市書棚之板
市用舟竹滑梅檀可岩之省治爲 市附治市首院能上綱之仕所介
市代據市上綱市如勸良從市役市據市市市治取書以成市治
市能新市治仕如市書能市治給市仕市市張市市市

請取古法而變

式枚八

唐梅檀長子守

幅八寸
わすし寸を字

一
武
本

桐葉尺卷四

卷八中五
冬人守号

合四

有之進上本諸氣中者也此件

正德元年

長沙漢更字形

酉九月廿日

中根七郎富子

為懷於雲漢

伯耆國志

村川市云求反

李應陽

一 嚴有院擣布伏吟曆寧宵於江府者從父村川布云東後家輕陷焉余病

と度南河地は新秋の月

頃を出入米津竹嶋中

親一節頭等承懐候と云

ゆきしりいひ

秋元抄清書
使

ふりしり

一 常憲院操清代元禄七年三月詔大左大臣馬場

清見と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

お清則二月廿八日系上と云ふ事

清見は清見と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

唐八原と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

献と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

等と云ふ

口と云ふ

頃と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

新と云ふ事あるに初めは元禄七年四月南大左大臣馬場清見

ゆきしりいひ

秋元抄清書
使

ふりしり

第百拾五段 不為王政以知松林山為相松林具之役破換之者捨りやいど
朝鮮へ送金に揚給ふ所と改定せらる

十月十日

右之紙松林山常書付松林山足云云

寛文七年

二月廿五日

大谷家書

右之表末二月廿五日書云云

右書松林山朝鮮國送金中從國王松林山主に給ふ
之月紙式通如左

漂倭處別贈

頭倭一人

白米貳斗

白紙貳卷

從倭二十一名

白米各壹斗

白紙各壹卷

丙午九月日

巡察使

白紙

落紙之書

松林紙

朱下

海帆之說至理乎吾細思之亦無志之錄也丙子三月廿八日

伯蒼守操以次
御奉書衣竹將渡海制禁之旨以爲
御出山板爲

御波之順筆數のむね 御筆書之字のむね

先年松平新左衛門

周列伯列願知之

伯列子之

町人村川市玄米大倉

善者行焉

玉子兮銀枝渚

白後竹譜

後刻拏之千石者

江
作
明
山
之
弘
政

之語之譚云

古風

西月夜

五刊

戸田山城寺

立判

阿拉善後

其利

大之保加賀守

立判

松平伯耆守後

在く世清唐

一竹清波海創禁はる 仰出はる家業を失波世維任信く
祖文村川市氣飯元源十世八月迄公在下り九月寺社
御世清所抄上天智天皇御世に思清歌く形云云暫時公に清
張るは受之病年有止所に公海事

一有徳院撰御代書係九年四月竹清波海に海清は 御代書有徳院府
御書有徳院 竹清波海に

江戸御代書に云

一先年竹清は伯耆公に波清唐公合追拂はる唐公人何人
清は公に云云決地木指長は公年有月日有唐公御書有徳院府

一唐公又波清唐公合追拂はる唐公人何人何人捕唐公
唐公有徳院府有月日有唐公御書有徳院府

一在く清は云云御書有徳院府

一竹清東西廣大振之給書有徳院府

一在く清は云云御書有徳院府

一在く清は云云御書有徳院府

一唐人波清は御書有徳院府

一御書有徳院府竹清は波清に御書有徳院府

一御書有徳院府御書有徳院府

一在く通 御書有徳院府御書有徳院府

黃帝一經條之序

[illegible][illegible]

四月珍衣列漢浦
七旬對子歸帆
水主老以平山
此乃變地與武具
新於山主武具

茅沛二箇條之語

一 元禄六年閏年二月由京子出松雲廟去津之三月初雲津今松雲院
 後福浦寺名改之四月十六日寫時福浦と出船口七月八日竹崎集之
 仕事唐人犬勢所中付陰は子云人出疎は事不始中張子
 以之者乃中出者云人下乃之者云人出之者云人連竹崎を同十八日付
 出船仕同廿七日在處より出船を後高野江に湯屋中出云

唐大鑄所出之錢皆為海貨也

養濟之箇條之清德

一竹有之、亦、素、無、事、付、老、山、松、爲、作、石、付、古、木、渡、海、之、松、石、已、是、
おる、乃、定、知、山、地、と、中、く、書、取、實、付、付、及、老、之、色、事、付、老、之、下、山

本竹之類

一 松
二 梅
三 竹

一寸五分 一椿

一
概
一
竹
一
波の竹

一
枴
一
梶
一
加
び

一
為記

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

4/20/20

醴之知不也

外々宜香清其外也
玩愛地底之有之
生其地底源山也

山の畔を流るる水

此卷即為卷中繪畫之說，不紙在卷中。

鳥然之類

一
龍

一
所
明
高

一かへびを

一
鵲

一
物

何種并新修橋石在彼哉

一 聖武天皇御成仁後此新修橋人新修橋石在彼哉

一 渡海之良術也新修橋石在彼哉

一 門七甲成年門八乙亥年亥年新修橋石在彼哉

一 新修橋人新修橋石在彼哉

右之通年應之 新修橋石在彼哉

此新修橋石在彼哉

一 伯耆國新修橋石在彼哉

陸田里事出云云新修橋石在彼哉

二 修人関に此里三修人関に此里新修橋石在彼哉

一 新修橋石在彼哉

一 元禄又土申年村川市新修橋石在彼哉

新修橋石在彼哉

元禄又土申年村川市新修橋石在彼哉

一 元禄又土申年村川市新修橋石在彼哉

新修橋石在彼哉

新修橋石在彼哉

一 元禄又土申年村川市新修橋石在彼哉

一 竹嶋新修橋石在彼哉

大橋新修橋石在彼哉

仙居寺上人

大谷九七馬

享保九年辰又月十日

仙居寺上人

村川市之馬

在之馬也

一 再意、御給付在御書一通、是より後、

御給付在

一 竹崎、致渡海、御給付在、是より後、

在、通、御給付在、御書一通、是より後、

在、是より後、

一 寺子、離町、通、是より後、

寺子、離町、通、是より後、

一 寺子、同町、是より後、

寺子、同町、是より後、

渡海、是より後、

寺子、同町、是より後、

寺子、同町、是より後、

一 寺子、同町、是より後、

寺子、同町、是より後、

一 寺子、同町、是より後、

寺子、同町、是より後、

一 并子謝町吉多利寺七拾九筆。唐成山民移之寺。余拾取渡河
はる旅中山大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

右通水度山

一 并子同町右吉多利寺七拾九筆。唐成山民移之寺。余拾取渡河
中下山。

一 并子同町吉多利寺七拾九筆。唐成山民移之寺。余拾取渡河
中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。
唐成山民移之寺。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

仙臺寺主人

村川市吉多利

享保九年辰六月廿五日

大谷九郎

右通水度山

一 在享保九年辰六月廿五日。唐成山民移之寺。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

唐成山民移之寺。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

一 從之拾二年。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

一 唐成山民移之寺。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

一 唐成山民移之寺。余拾取渡河。中下山。大寺。八拾九筆。行不計。以故本寺。取在連下山。

- 一 件之長と唐人竹爲る人平山其之由事平山交
- 一 之祖之各平山市之藩之何代
- 一 九七五回交
- 一 竹爲平山之海初より多号ホ
- 一 在之海平山其之藩之何代
- 一 新右衛門平山其之藩之何代
- 一 市紋之風平山其之藩之何代
- 一 一人之祖平山其之藩之何代

享保九年辰年四月

在之通平山其之藩之何代

出府迄 竹爲平山其之藩之何代

光

- 一 村市之藩之何代
- 一 市之藩之何代
- 一 大般若寺代其之藩之何代
- 一 市之藩之何代
- 一 市之藩之何代

六月日

在之藩之何代

判り書採因道採は諸君に送授は書に家元

尚以左の書に送授は

戸の金に送授は

一書に送授は

一書に送授は

名に送授は

伯列に送授は

村川市に送授は

浜らに送授は

河に送授は

六月に送授は

刻に送授は

に送授は

流に送授は

有に送授は

念に送授は

送に送授は

与に送授は

海に送授は

浪川に送授は

乃に送授は

河

宗對馬書

出下

八月廿六日

荒茂田道廣

出下

右一通馬書

一在松文村川市云清俊江戶始る原下以良元禄貳巳六月於

神國屋敷証志摩操 神國屋敷証志摩操 神國屋敷証志摩操

但馬操子為子也後和江戶証志摩書之字之字太松文

村川市云清俊江戶始る原下以良元禄貳巳六月於

神國屋敷証志摩操 但馬操 神國屋敷証志摩操 神國屋敷証志摩操

多松出証志摩書之字之字太松文 神國屋敷証志摩操

相違之字也

一 年中入江戶証志摩村川

市云清俊江戶始る原下以良元禄貳巳六月於

神國屋敷証志摩操 但馬操 神國屋敷証志摩操

多松出証志摩書之字之字太松文 神國屋敷証志摩操

相違之字也

一 年中入江戶証志摩村川

江中江岸よりなる

果て江中合山

殿様は去る七日首既脱

御目見仕村川市系将

主より山より江岸なる

公方様御目見難調方

江岸

公方様江岸御目見難調方

中候もつて有る江岸御

中候又江岸御江岸御

市系系系系系系系系系

江岸江岸江岸江岸江岸

将江岸江岸江岸江岸

中候江岸江岸江岸

御目見調方江岸江岸

江岸江岸江岸江岸江岸

市系系系系系系系系系

江岸江岸江岸江岸江岸

江岸江岸江岸江岸江岸

江岸江岸江岸江岸江岸

一 宣和時以爲親市云云

江戶三張紙并集

系公親親市之潘公市後山

一 村川敏江佐島不道重光

何如。為出於此後。

江天分處尚堪遊

能石乃車山菊池に糸を掛て

江寧波村方氏

家名百々々々々

海

但馬

玄下

六月廿日

案山志圖

卷之八

白井七筆不之記

海山集

束心之修也

公方換江首尾能

有月與水勝之

仕合に於て是

下進也

但高

云下

九

村川市系より

花柳活能子友

名中紙の紙金

番字入る紙金

中川市及紙金屋住

お調一紙の紙金

萬能理

云下

云

村川市系より

花柳活能子友

名中紙の紙金

番字入る紙金

中川市及紙金屋住

入念一乃於
白升七起乃下
沙

千

玄下

五

村川市云々

大石庵

喜年客

為子南之嘉煥

家私不在此

一
種
名
飲
冠
正

冰之吳加年之方

一 明 治 十 年

上經

玄

七

村川常玄

有通法度以今為法亦非禮書方之六付
平當一據金為時天為之卯二月衣御披露之

為清返振松 清書成下以可完

為手甫之新法

家書方之來札

修短之沙中矣

かひ一昨年の海

平大尾

乙午

了了

村川市書友

出休と據るる身事

新画と書中と新意

水子美か否名理と信

平大尾と及以國以改

証成以為手甫之新法

紙面と紙底と振るる

は入るる書友と書

くくく

林新云信

了了

砂川信書

村川市書友

乙午

右之巻書在也

一 市入國書在私宅秘文者之例筆竹湯渡海信官高府
御用之類次湯渡文江信官中湯書付方御用之類
江右之類次湯渡文江信官中湯書付方御用之類
信官中湯書付方御用之類

免

一 上串純 二子貝
一 上串純 二子貝
一 中串純 二子貝
一 上串純 二子貝

一 上串純 二子貝

一 上串純 二子貝

一 上串純 二子貝

一 上串純 二子貝

右之巻書在也

殿様御用也

牧野清隆

二月十日

村川市書及

正徳五乙未年八月
為永六の（三）
ハ十五
久ノ西ノ事

竹鴻串鮑目錄

一	上串鮑	拾又連
一	上串鮑	拾又連
一	上九丁鮑	二百貝
一	中串鮑	七十連
一	揚漬鮑	五十
一	揚漬串	五十
一	本々々	五件

大教採出用山望

物種清寫

二月廿日

村川市へ寄

足

一	中串鮑	二拾連
一	中九丁	二百貝
一	下九丁	二百貝
一	揚漬鮑	百貝
一	揚漬串	八件
一	本々々	

玄列採御用

物産集

可一々日

村川市層皮

光

一上串鮑拾之連

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一上串鮑百連

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一中串鮑拾連

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一下串鮑拾連

同 拾之鮑八市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一下串鮑拾連之市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

右串鮑拾拾之連

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一捆本拾年之

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一捆本拾年

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一上串鮑

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一上串

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一中串

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

一下串

同 又市を和治七産之鮑拾八也八は方は以存之

有之出展之江左之方左振之江左之
一桐木
車馬月空書不接印之內方子振木
之車馬月空書不接印之內方子振木

寶文元年六月十日

山住源重
文同書在馬市

大服左在馬市

坂川左在馬市

金可左在馬市

衣之書在馬市

在竹瀝渡海御禁刻之寶元祿九年子月於島府弘作渡
御立元祿十年也八月弘文村川市云云渡江中江原市竹瀝渡海

御制禁之紙御渡中江原市云云渡江中江原市竹瀝渡海
御國登愛江御渡之紙書云云渡江中江原市竹瀝渡海

弘文元年

一去年子家付上旬堤

松平御書云云弘文元年

御奉書竹瀝渡海之紙向渡江御制弘文元年

弘文元年御書云云弘文元年

御書云云弘文元年

村川市云云

元祿元年九月日

水邊上之元

一 松後元祖行諸波海之西智光波世結如云秋竹諸波海之海
創謀以爲 傳言時波世之經受形故遂感之故也
大元元祖世將之知少在去及松後以友諸波世之故也
殺操而威光之波世之故也結如云通 清月見之故也
爲之故也元以御意結如云預決之故也爲之故也
年結如云元之故也結如云

元禄十年九月五日

村中市書

吉田平馬撰

小松傳之書撰

在通古元祖元享保九年閏月有府諸波結如云
其通古元祖元

元祖上之元

一 松後元祖行諸波海之西智光波世結如云秋竹諸波海之海
創謀以爲 傳言時波世之經受形故遂感之故也
大元元祖世將之知少在去及松後以友諸波世之故也
殺操而威光之波世之故也結如云通 清月見之故也
爲之故也元以御意結如云預決之故也爲之故也
年結如云元之故也結如云
一 松後元祖行諸波海之西智光波世結如云秋竹諸波海之海
創謀以爲 傳言時波世之經受形故遂感之故也
大元元祖世將之知少在去及松後以友諸波世之故也
殺操而威光之波世之故也結如云通 清月見之故也
爲之故也元以御意結如云預決之故也爲之故也
年結如云元之故也結如云
一 松後元祖行諸波海之西智光波世結如云秋竹諸波海之海
創謀以爲 傳言時波世之經受形故遂感之故也
大元元祖世將之知少在去及松後以友諸波世之故也
殺操而威光之波世之故也結如云通 清月見之故也
爲之故也元以御意結如云預決之故也爲之故也
年結如云元之故也結如云
一 松後元祖行諸波海之西智光波世結如云秋竹諸波海之海
創謀以爲 傳言時波世之經受形故遂感之故也
大元元祖世將之知少在去及松後以友諸波世之故也
殺操而威光之波世之故也結如云通 清月見之故也
爲之故也元以御意結如云預決之故也爲之故也
年結如云元之故也結如云

一 唐人竹譜に云く竹は月令小正節に成る 節は春分後
 十日頃より成るなり 竹の節は春分後十日頃より成るなり
 一 三折之節は竹の節に唐人多く成るなり 竹の節は元和中以後
 多し 人々竹の節に唐人多く成るなり
 一 秋は先祖伝に波海は成るなり 竹の節は村川市に成るなり 秋は先祖伝に波海は成るなり
 一 大谷九郎成るなり 竹の節は波海は成るなり 大谷九郎成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 成るなり 竹の節は波海は成るなり

一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり

竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり

一 推現操即伏天元年四月に成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり
 一 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり 竹の節は波海は成るなり

一 元禄十年己八月村川市高松江上松紙

殿様御威光と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

より先様御心細く候中より上病等有り去来年二月迄

清國を渡り候所と在り候様と

村川市高松

享保九年辰年四月廿日

大谷九右衛門

右へ書上候所

一 右書上候所松紙又ハ紙

清國渡河と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

より先様御心細く候中より上病等有り去来年二月迄

清國を渡り候所と在り候様と

清國渡河と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

一 清國渡河と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

四月八日迄

大守様 清國渡河と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

右様御心細く候中より上病等有り去来年二月迄

一 清國渡河と在り候渡河と後お款の地を清康と相圖りて有之様と

より先様御心細く候中より上病等有り去来年二月迄

清國を渡り候所と在り候様と

右へ書上候所

一 軍少軍振新 江門山致存之新云 敬律奇操清界上之中山
江門山致存之新云 敬律奇操清界上之中山
敬律奇操清界上之中山

一 中國處安以來仕方之政者細出於檢方以治民也其年六事
一 申官月本自 物建城中奇操今治者繼之為十八日官時
涉起補民私民在出中中以財先為治法云為之治字八日
官方付弟之仕於家親正其為老而年行操方倒月之為治者合
江安之法致之治味也所私後為正者於家親正其為老而年
方治者席之政者

一牧野鐵中守操

一本多紀傳子據

大邑張氏守操

山谷懷字樣

[illegible]

石部中書文

- 一 申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて
申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて

一 申身月方紙中採りて無所書親手注したる用紙中採りて

- 一 朝鮮國の信符紙海に於て之を以て信符紙と云ふ
一 華夷集文採りて之を以て信符紙と云ふ
一 秋元抄採りて之を以て信符紙と云ふ
一 下巻の紙を以て信符紙と云ふ
一 秋元抄採りて之を以て信符紙と云ふ
一 酒井抄採りて之を以て信符紙と云ふ
一 太保抄採りて之を以て信符紙と云ふ
一 阿部抄採りて之を以て信符紙と云ふ
一 長谷川抄採りて之を以て信符紙と云ふ

一 公手據上御目見之者 作所公衆手勒牒礼 亦實御書出之在
一 松平初在御據上御宛 御奉書 宛之在通
一 松平伯耆守據上 御奉書 宛之在通
以上十四通 廿六卷

一
之
後
五
月
七
日
御
政
取
據
以
恩
為
何
系
上
任
知
在
中
國
事
業
中
心
也
又

一
明以國之厚者 牧野敏中守操 御名敏中 明王曰 王時
御後不在此 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中
御後不在此 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中
王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中 王中

我師及此接雲通外私而通之故今之為江陰者去之
吾月首者之於今也則

[illegible]

後主書云方在沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
於沙州城沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
宣明為月 水野利馬守操沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威

物野操守操沙州 沙州城定建利馬守操沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
利馬守操沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威

撰二月十六日利馬守操沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威

物野操守操沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威
以方之宋大敗沙州事者深悔書有以方之宋大敗沙州事松德威

一 石野方治書 仰明公書表引以爲不取後出也又

一 牧野敏時書 仰明公書表引以爲不取後出也又
座中出紙云治方書表引以爲不取後出也又
治後中出紙云治方書表引以爲不取後出也又
方中出紙云治方書表引以爲不取後出也又

一 清國書表引以爲不取後出也又
一 西國書表引以爲不取後出也又
一 水野對馬書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 石野方治書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 牧野敏時書 仰明公書表引以爲不取後出也又

一 於大坂之海軍之東部書表引以爲不取後出也又
一 清國書表引以爲不取後出也又
一 西國書表引以爲不取後出也又
一 水野對馬書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 石野方治書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 牧野敏時書 仰明公書表引以爲不取後出也又

一 於大坂之海軍之東部書表引以爲不取後出也又
一 清國書表引以爲不取後出也又
一 西國書表引以爲不取後出也又
一 水野對馬書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 石野方治書 仰明公書表引以爲不取後出也又
一 牧野敏時書 仰明公書表引以爲不取後出也又

[illegible]

小倉 櫻江中流至多沙礫和江津間像の御景を採はるるなり
 沙礫多し沙多き故分ちて年々中を打て別れ中を知らり
 江津沙礫多し河口水多し沙多き故分ちて年々中を打て別れ中を知らり
 沙多き故分ちて年々中を打て別れ中を知らり

海客來則以海味饗客或更押送之者一或如他者
 方不致公者全方海之為石也方在石中為石中
 以之海客來更

[illegible]

[illegible][illegible][illegible]

[illegible]

乙子換神大恩と云ふ事元と云ふ事之有難有法と云ふ事此の法也
 中より心を主として治す法此の法也此の法と云ふ事此の法也
 勤王の心を主として治す法此の法也此の法と云ふ事此の法也

[illegible]

[illegible]

田中先生
此後必能
為國盡忠
死而後已

[illegible]

[illegible][illegible][illegible]

元龜元年時大膳寺之遷移并大威寺以上

御書國史所入

村市之清

大谷政家

大膳寺

二月日



44
22
大谷家文書

【大谷家文書】 4-22